



Beyond KUSS , 2025 !!



共通テスト模試自己採点集計

卒業研究(課題研究、KP)、提出できましたか。一区切りつきましたか。

共通テスト模試に関して、No_7で「『◎』は『理解正解』、『○』『△』は『不安正解』、『□』は『偶然正解』。『不安正解』の問題・分野を『理解正解』にすることが重要です。『偶然正解』は不得意・苦手分野、改善が必要」と紹介しました。正解は、すべて「理解正解」だったでしょうか。「不安正解」、「偶然正解」の問題、「理解正解」となるよう、復習してください。

共通テストや共通テスト模試、容易に自己採点できるのが特徴です。次ページに11回生の自己採点にもとづく度数分布と平均値等を示した表と、自己採点1000点満点得点率の箱ひげ図を示しています。10回生以前の総合成績は900点満点のため、総合成績の得点率も示しています。箱ひげ図では第三四分位数と第一四分位数の幅が小さく、基礎・基本の強化ができれば、得点上昇が十分に期待できる状況です。現段階では全国集計結果が発表されていませんが、11回生も10回生同様に成績状況は好成績と評価できます。

共通テストや共通テスト模試は、自己採点が容易にできます。その時々自身の状況を即座に把握できます。これから目を背ける人は、前進できます。しっかり向き合いましょ。自己採点は今後の方針を考えていくために必要な作業です。今回の共通テスト模試は夏季休業に向けての学習計画、共通テスト本番では二次試験に向けての学習計画を考える重要資料です。

自己採点の集計を行う過程で気になる点があります。(1)自身の解答を控えていない人がいます。事前に「本番を想定して模試を受験する」よう連絡していますので、大きなトラブルです。(2)自己採点入力時、受験科目を間違えている人がいます。(3)進路希望調査でもコード番号の入力を間違っている人がいます。(1)は自身の状況を正しく把握することができないので、前進する大きな障害になります。(2)は致命傷。出願時の手続上のミスが発生すると、出願そのものができません。(3)もよくある手続上のミスです。出願時に発生すると、致命傷になります。手続上のミスは回避する必要があります。

No_7で「受験学力の土台となる基礎・基本の定着ができているかどうかは、全科目が6割以上得点できているかどうかが目安」と紹介しました。自己採点結果から全科目が6割を超えている人は14名だけです。14名の総合成績(1000点満点)の平均は789です。出題範囲の学習が終了している国語、数学(2)、英語(2)、情報の6科目全科目が6割以上得点できている人は44名です。「44名もいる」、「44名しかいない」のどちらでしょうか。もちろん、後者です。基礎・基本の定着ができない限り、実力の伸びは期待できません。夏季休業終了までにこれらの科目の基礎・基本の定着を目指し、学習計画を考えましょう。理科・社会については、授業の進度を把握し、自身の学習計画を考えましょう。暑い時期に基礎・基本の強化をできる人が、冬に大きく飛躍します。

油断せず、体調管理に気を配り、着実に一歩ずつ歩みを進めることが大切です。

<保護者の方々にも読んでいただきましょう>

『Beyond KUSS , 2025 !』など進路課が発信する情報の一部をHPに掲載しています。

共通テスト模試科目別得点度数分布(自己採点集計)

省略